

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	合志市協「れんがの家」		公表日		令和 8年 3月 13日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	2	・基準スペースは確保できている。民家を使用している為スペースの限界はあるのだが、パーティションや創意工夫でスペース確保に努めている。 ・他事業との共有スペースを活用したり、パーティションなどで空間を区切り、支援がスムーズに行えるよう工夫している。 ・活動内容によっては、児童のグループ分けを行い、支援を行っている。	・個別対応が必要な児童に配慮を行う時に、パーティション、マットの工夫をしているが、部屋数がもう少しあれば尚、個別性の重視ができると感じる。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	2	・活動内容により、職員の配置を考えている。	・課題や特性により、支援が多く必要と感じる時もあるので、職員の増員をしてほしい。 ・配置上は適性ではあると思うが、専門的支援を行う為には、人材補充が必要と思われる。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	3	・民家活用の為、かなり工夫している。情報伝達には、LINE、アプリを活用している。 ・グループ別に写真の提示を行っている。 ・安全面を第一に考えながら、今ある空間を最大限に活用し構造化を意識した環境調整を可能な限り行っている。	・民家活用の為、今後も動線の工夫を行い、支援方法の工夫を可能な限り継続していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	・清掃、消毒には気を配っている。 ・活動終了ごとに、室内清掃、玩具消毒を行っている。 ・環境整備、安全委員会による環境衛生チェックを行っている。	・より安全に落ち着いて過ごしてもらえよう、環境調整を行っていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	・子どもの特性に応じた環境設定を行っている。 ・他事業に協力を得て、部屋を使用することができている。	限られたスペースである為、パーティションを活用しているが、同室の他児が視界に入り、別室等に分けるだけのスペースと、職員が足りないこともある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9	0	・療育開始前のミーティング、申し送りノートを活用し、情報共有をしている。 ・個別支援会議に参加できない職員の為、議事録を残し、回覧共有に努めている。 ・日々の気づきの共有やヒヤリハットを記入し振り返りの機会を作っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	0	・保護者会、保護者面談等で、意向の確認を行っている。 ・評価結果を踏まえて、全職員で改善策を考える機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	・職員ミーティングを定期的に行い、週案作成や事例検討も全職員で行っている。 ・職員が意見を出しやすい場作りを心がけ、気づきは改善できるように努めている。(ヒヤリハット、虐待防止等の記録も心がけている。)	・職員ミーティングにおいても対話形式の場面を作り、話しやすい雰囲気作りを心掛け設定している。 ・定期的な管理者との面談に加えて必要時に面談を行い意見等を把握する機会を設けている。 ・自己評価等についてもツールを取り入れ実施していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	3	・今後計画予定。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・内外部の職員研修参加の希望を募り、全職員がそれぞれの強みで参加できるようにしている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	・パンフレット、ホームページに公表。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	・アセスメントツールを活用して評価を行い、個別支援会議等で共有することで、個別支援計画を作成している。	

適切な支援の提供	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9	0	・全職員参加の個別支援会議を定期的に行い、検討し取り組んでいる。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	0	毎日のミーティングにて職員間で共有し、支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9	0	・フォーマル、インフォーマルなアセスメントを実施し、考察している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	0	・グループ化し、支援プログラムの作成を行っており、目標、目的等も、全支援員で共有している。 ・週案の共有・検討を実施。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	・日々のミーティングや、支援時間の合間に、具体的内容について共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	4	・時間が取りにくい為、ノートを活用して、情報共有をしている。	・短時間でも、出来る限り振り返りの機会が作れるよう努めていく。あわせて、今後も振り返りノートを活用する。 ・新たに振り返りを行う為のツールを活用し、情報の共有を図っていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9	0	自分の事だけでなく職員間で声掛けを意識し、記録の徹底に努めている。	
関係機関や保護者との連携	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	・児童発達管理責任者並びにそれに準ずる者が参加できるように努めている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	・必要に応じて、病院受診同行や保育園訪問、保健師との連携を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	・保育園訪問や送迎時の情報交換など積極的に連携が図れるよう努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	2	・就学支援シートの作成を行っており、情報の共有に努めている。 ・就学に向けた関係機関への情報提供・共有の取り組みを行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	0	・児童発達支援センター主催の研修に参加し、機会があるごとに助言をもらっている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	2	・合志市社会福祉協議会のネットワークにより、地域の中での繋がりをつくる企画を行っている。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	9	0	・日々の連絡帳、親子れんが、面談、療育参観後の懇親会等の機会を頻りに作るよう努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9	0	・家族に対し、ペアレント・トレーニングや研修会の情報提供を行い実際に研修会への参加もみられている。 ・事業所としては、土曜日に保護者支援を目的とした活動企画やペアレントメンターを活用した保護者会を企画・開催した。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	・契約時、毎年度の事業説明会で行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	0	・年間計画を立て、同年齢・異年齢での保護者交流の企画や母のみでなく父も参加しやすい保護者会の企画を行うなど幅広く取り組んでいる。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	・事業所での面談・電話・ラインなどを活用し、迅速かつ適切に対応するよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	・手に取ってもらいやすいよう、お便りをデータ化して発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	文章が分かりやすい場面には(視覚的)文章で、複雑な内容の説明については面談を行うなど、保護者様の就労状況や説明内容によって配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	1	・行事等に地域住民、ボランティアの参加を依頼している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	消防法に基づき、消防計画を作成し年2回の避難訓練や不審者訓練等を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	1	・れんがの家では、安全計画を策定している。内容については、毎年度見直しを行い、安全、防災、感染、権利擁護委員会によるマニュアルの整備、年2回以上の委員会会議、1回以上の職員向けの研修に併せて、各事業ごとも、こども、家族が安心、安全に利用できるような安全計画策定に努めている。 ・定期的に避難・救出等の訓練を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0		
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	0	職員間でも声をかけ合い、小さな気づきを見落とさないよう、日々共有し対策・対応について検討をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0		

	53 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0		
--	---	---	---	--	--